

「サモアでの体験談」

JICA 海外シニアボランティア

(サモア国立大学 科学健康科学部 科学教育担当)

鈴木俊章

サモアは太平洋のど真ん中、ハワイとニュージーランドの中間にあります。青い空とエメラルドグリーン的大海、涼しい風がそよぐ常夏の楽園です。2013年まで後開発国に分類されていた国ですが、実際の生活は大変幸せで、教える事より学ぶ事の方が遥かに多い国でした。ストレスの蔓延した日本を癒す、快適なライフスタイルがありますので、それらをご紹介します。



究極の楽園サモアに2004年～2006年と2009年～2011年の間、サモア国立大学 科学健康科学部で科学教育担当としてJICAより派遣されていました。

派遣されるまで、サモアの事は一つの歌しか知りませんでした。それはNHKのみんなの歌で流行った「サモア島の歌」です。行ってみると全く歌の通りでした。

青い青い空だよ 雲のない空だよ サモアの島 常夏だよ～
高い高い椰子の木 大きな大きな椰子の実 サモアの島 楽しい島よ
青い青い海だよ 海また海だよ サモアの島常夏だよ～
白い白いきれいな 浜べのひろばだ サモアの島 楽しい島よ
※ 風は吹く 静かな海 鳥はとぶとぶ なみまをゆく
ララ 船出を祝い 無事を祈る みんなの声が 追いかける

ふく風そよそよ 太陽ぎらぎら ぼくらの島常夏だよ～
手拍子そろえて 元気に歌えば ぼくらの島 たのしい島よ
みんな集まれ いつもの広場に ぼくらの島 常夏だよ～
一緒に並んで 愉快地に踊れば ぼくらの島楽しい島よ
(※ くり返し)

2004年10月 合格の2週間後に、スーツケース1個とプリンター1台を携えてサモアに赴任。同期は教育省赴任の日浦夫妻と歯科医の富成母娘でした。赴任後すぐに住居探しが始まりましたが、私は最初に泊まったホテルのサービスが気に入ったので、広めの部屋を改良してそこに住む事にしました。JICAサモアでの1ヶ月間の研修を終え、職場に行き打合せをしました。



赴任先のサモア国立大学は1997年に日本の援助によって出来た大学で、5学部（人文、科学、社会、教育、科学健康）があります。今回の要請は、科学健康学部で科学教育を担当し、科学実験室を管理する事でした。科学実験室は大学から車で10分程離れた病院の前にあります。ここはニュージーランドエイドが5年前に作り2年間指導がありましたが、その後、使われておらず、私が行った時はゴミだらけでとても使える状態ではありませんでした。



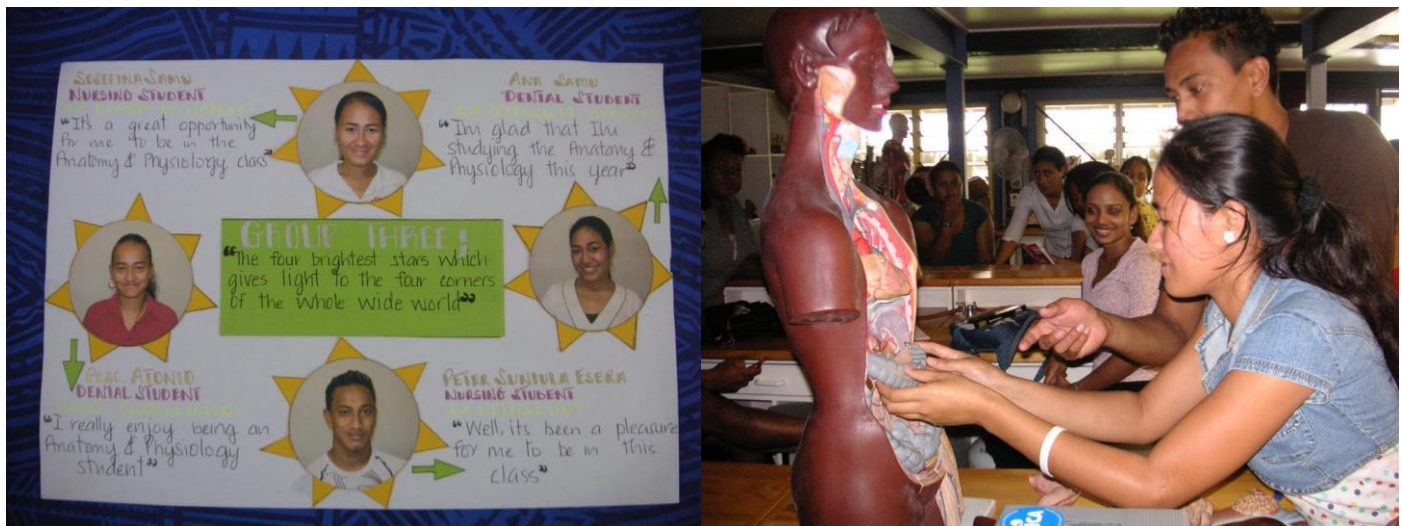
授業が始まる前に生徒達が集まり、大掃除が始まってピカピカになりました。しかし、機械類はほとんど壊れていたもので、数ヶ月は修理に追われました。幸いガラス器具は揃っていたので、簡単な実験から始める事が出来ました。顕微鏡は6台ありましたが、壊れていました。調べて見ると電池の接触不良である事が判明し、分解して磨きました。ヤスリが無いのでマンゴーの種をヤスリ代わり使いました。最初の授業は微生物学でしたが、白金耳も無いので、針金を割り箸の先に括りつけて作りました。途上国での授業は機材の欠乏をいかに工夫して補うかにかかっています。

微生物学、生理学、薬学、解剖学、の4つの授業を半期ごとに受け持ち実験を行います。生徒だけではなく、先生に教え、私が帰国した後、現地の先生方が実験授業を継続出来るようにしなければなりません。講義マニュアルや安全な実験マニュアルを作って指導しました。サモアではインクが非常に高く、紙もやや高いので、生徒にプリントを配る事が出来ません。JICAからプロジェクターを借りれた時は、実験マニュアルなどをノートに書き写してもらった事が多かったです。



半年が過ぎ、少し慣れてくると講義も受け持つようになりました。サモア人は小学校入学まではサモア語だけで生活していますが、小学校1年生から10%づつ英語の授業が入り、3年生で話せる様になります。6年生では私よりも流暢に話しをします。しかし、大学生でも英語の苦手な生徒もいて、特に社会人になってから学生になる人は困ります。そこで、グループ分けをしてグループで評価をする様にしました。準備も片付けもグループ単位で行い、早く終わったグループから授業終了にすると作業スピードがアップします。グループの意識付けを行うために最初に写真を撮ってグループボードを作ってもらって壁に貼りだしました。

また、サモアは自然な食料が豊富で一生懸命働かなくても暮らしていけるので、勤労意欲や学習意欲も少ないように感じました。しかし、大学生でありながら、小学生のように好奇心旺盛で純真で真面目な生徒が多いので、授業ではクイズやゲーム感覚を生かした授業を行い学習効果を高めました。右下の写真は、各グループ代表一人が人体モデルの組み立てをタイムレースで行うものです。他のメンバーは手出しせず口頭のみでアドバイスするというルールで競いました。これにより、各臓器の名前や場所、奥行きを効率良く覚える事が出来ました。



サモアは2003年まで後開発国で経済的には微弱でした。自給率が高いので生活自体は豊ですが、近代的な生活に憧れ、車や電化製品の需要が高まると外貨収入を得るために海外への出稼ぎが増えました。サモアの看護学生はその半数が海外に行くので、国内需要の2倍の生徒を育成する必要があります。その為に余暇を利用して、看護師募集のポスターやパンフレットを作成しました。寮完備、学費無料化を進め、宣伝したところ多くの優秀な人材が集まりました。



赴任先で技術を移転する対象者をカウンターパートと呼びますが、私の要請書には明確なカウンターパートは記載されていませんでした。単に学生に実験を教えても、私が帰国したらまた実験室を使わない授業に逆戻りするのでは意味がありません。そこで、教員でやる気のある2名と病院のバイオラボで働く研究者2名に絞って技術移転を行いました。特に一人の教員は授業の進め方から、パソコンやプロジェクターを使った授業、検索の仕方からテキスト作成まで、さらにホームページの作り方までマスターし、次々と出世して学部長になりました。

当時、青年海外協力隊で派遣された看護師が相談に来て悩みを打ち明けました。「看護師の中には注射針を注射の前に自分のハンカチで吹く人がいるので、なんとかして欲しい」そこで、ハンドカルチャーをして手やハンカチにも雑菌がいることを示すことにしました。しかし、大きなディッシュも寒天もありませんでした。そこで、小さなプレートの裏から十字の線を引いて4分割し、サメの煮ごりから取ったゼラチンに糖分をいれて培地としました。そこに4つの場合分け（1、そのままの指、2石鹸で洗った指、3エタノールで消毒した指、4、ハンカチで手を拭いた指）をして指を押しもらい、1晩37度で培養して結果を観察します。すると直ぐに園意味を理解するので、それ以降ハンカチで注射針を拭く看護師はいなくなりました。この様に実験によって目に見える形で教えて行く事が私の仕事でした。

学生の半分は国内の病院で働き、病に弱った国民を助けます。海外に出た者も数年間病院で働いた後に、サモア恋しさに帰国しますが、高度な技術を学んで帰国するので、国内の医療レベルが向上します。

サモアは家族愛に満ちた国で、一人が入院すると家族の者数名が交代で病院の廊下などに泊まり込んで看病します。そんな状況を見ていると育児放棄や介護放棄で苦しむ日本人に伝えなくてはならないものがあると感じました。一家族が平均30名だと言います。それは親戚一同が近くに住み、助け合って生活しているという事ですが、老人介護や子育ての問題が解消され、ボケも発生しにくい環境があります。死に至るまで家族の温かい介護の元、家族に囲まれて暮らしています。



2度目の派遣の時は、約2ヶ月間の合宿での準備期間がありました。余裕があったので、大学だけではなく、小中高にまで教えに行きました。そこで数々の教授法の問題点を見つけ是正していきました。それによりサモアの学力が順調に伸びて来ました。地方の病院診療にも同行し、衛生的な生活の基本や哺乳瓶やまな板の滅菌消毒を指導したりもしました。

サモアは個人の身体能力が非常に高く、ラグビーでは常にトップレベルです。7人制のラグビーでは香港大会で優勝しています。日本もサモア系の選手が入ってから強くなりました。

また、サモアは有用植物の宝庫で、伝統的医師の使う薬用植物には驚くべき効果があります。やけどや壊死を起こした足薬草を貼り付けて治していました。エイズの特効薬もサモアで見つかっています。自然と人間が調和したこの国では教える事よりも学ぶ事の方が多かったと思います。